

2019年度第2四半期 決算説明

－ 2019年1月～6月 －

2019年8月9日

株式会社 CAC Holdings

I . 2019年度上期 決算概況

II . 2019年度下期の見通しと
通期業績について

I . 2019年度上期 決算概況

連結業績概要（前年同期比）

	2018年2Q	2019年2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	25,440	26,251	+810	+3.2%
売上総利益	5,077	5,229	+152	+3.0%
(対売上比)	20.0%	19.9%	0pt	
販管費	4,542	4,391	▲150	▲3.3%
営業利益	534	837	+302	+56.6%
(対売上比)	2.1%	3.2%	1.1pt	
経常利益	477	810	+333	+69.9%
(対売上比)	1.9%	3.1%	1.2pt	
特別利益	360	3	▲357	▲99.0%
特別損失	161	—	▲161	—
四半期純利益	283	438	+155	+54.7%
(対売上比)	1.1%	1.7%	0.6pt	

- ・ CRO事業が減収となったものの、国内IT事業、海外IT事業が堅調のため増収
- ・ 増収に加え、販管費の圧縮などから増益

【売上高】

前年同期比3.2%増、8.1億円増の262億円となった。

【売上総利益】

売上増に伴い利益も増加し1.5億円増

【販管費】

1.5億円減少

【営業利益】

昨年対比57%増の8.3億円

【経常利益】

3.3億円増の8.1億円

【特別利益・特別損益】

今期は特に大きなものは発生しなかった。

【四半期純利益】

4.3億円となった。前年同期比で54.7%増。

- ・ 増収増益ではあるが、利益水準がまだ低いことは十分認識している。昨年同期が低調な決算だったため結果的に増収増益となった。
- ・ 大きな流れとしては、CRO事業が大幅な減収減益となったものの、国内IT事業や海外IT事業が堅調のため結果的に増収増益となった。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

売上高

単位：百万円

	2018年2Q		2019年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	14,362	56.5%	16,204	61.7%	+1,842	+12.8%
海外IT	5,412	21.3%	5,902	22.5%	+489	+9.0%
CRO	5,665	22.3%	4,144	15.8%	▲1,520	▲26.8%
合計	25,440	100.0%	26,251	100.0%	+810	+3.2%

営業利益

	2018年2Q		2019年2Q		前年同期比	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	増減率
国内IT	282	2.0%	859	5.3%	+576	+204.2%
海外IT	▲186	-	87	1.5%	+273	-
CRO	439	7.8%	▲108	-	▲547	-
合計	534	2.1%	837	3.2%	+302	+56.6%

※ 売上高は、外部顧客への売上高を表示

当社は国内IT、海外IT、CROで分類し、セグメント開示している。
CRO事業は海外での売上はほぼ無いので、国内での実績となる。

【国内IT】

売上高は、18億増加の162億円、営業利益は、5.7億増の8.5億円となった。
特に伸びたのは、中核子会社であるシーエーシーで、売上高が昨年より、
13億円、営業利益が5億円増加しており、国内ITの増加の主要因と
なっている。

【海外IT】

増収増益となった。売上高、5億弱伸びて59億円、営業利益は87百万円で
黒字に転換した。
第1四半期の時点では赤字で、昨年は約2億のセグメント損失だったので、
この四半期で黒字になった。
まだ利益に貢献はできないが、いろいろ苦勞してやってきたことが
奏功して黒字に転換してきたと言える。

【CRO】

大幅な減収、売上高は、昨年より15億円減収の41億円。
減収にともない、営業利益は1億円のセグメント赤字、昨年より5.4億円
下回った。

顧客業種別売上高（連結）

単位：百万円

	2018年2Q		2019年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
金融	3,440	13.5%	3,076	11.7%	▲363	▲10.6%
信託	2,013	7.9%	2,697	10.3%	+684	+34.0%
医薬	8,148	32.0%	7,094	27.0%	▲1,053	▲12.9%
食品	1,356	5.3%	1,434	5.5%	+78	+5.8%
製造	1,749	6.9%	2,097	8.0%	+347	+19.9%
サービス他	8,731	34.4%	9,849	37.5%	+1,117	+12.8%
合計	25,440	100.0%	26,251	100.0%	+810	+3.2%

※ 外部顧客への売上高を表示

【金融】

金融は3.6億円の減収、その多く（2.3億円）はインド国内における銀行との取引減。

【信託】

信託向けは増加した。
従来型案件のニーズが引き続きあり売上につながった。

【医薬】

CROは15億円減だが、国内ITで5億円ほど製薬会社からの売上の伸びがあり、トータルで10億円の減となった。

【サービス】

11億増。そのうち7億円強が海外である。特にインドの子会社ISLが中東ドバイでの取引で5億円ほど伸びた。

セグメント別受注高・受注残高状況（連結）

受注高

単位：百万円

	2018年2Q	2019年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
国内IT	14,747	17,234	+2,487	+16.9%
海外IT	5,503	6,517	+1,013	+18.4%
CRO	5,614	5,005	▲608	▲10.8%
合 計	25,865	28,757	+2,892	+11.2%

受注残高

	2018年2Q	2019年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
国内IT	7,127	7,737	+609	+8.6%
海外IT	1,330	3,781	+2,450	+184.1%
CRO	7,643	6,928	▲714	▲9.3%
合 計	16,101	18,447	+2,346	+14.6%

※ 外部顧客への受注高、受注残高を表示

【国内IT】

受注環境も旺盛。

- ・ 受注高、24億増の172億円
- ・ 受注残高、6億増となった。

CACで受注高が19億円の伸び、CACを中心に受注が伸びていて、下期も堅調な売上が期待される。

【海外IT】

- ・ 受注高、10億円の伸び。
- ・ 受注残、24億円の伸び。前期比は大きな数値となっているが、これは、受注計上のボラティリティが高いこともあるが、インフラ系で複数年にわたる案件をインド・中東で受注したものが残っているため。

昨年の受注残が少なかったため、前年同期比で大きな数値となっているが、数値としては37億円でさほど大きな受注残高ではないとみている。

【CRO】

売上と同様に低調となった。

- ・ 受注高、6億減の50億円。
- ・ 受注残、70億を割って昨年より減額となっている。

業種別受注高（連結）

単位：百万円

	2018年2Q	2019年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
金融	3,746	3,299	▲447	▲11.9%
信託	2,016	3,157	+1,140	+56.6%
医薬	8,038	8,215	+177	+2.2%
食品	1,578	1,775	+197	+12.5%
製造	1,744	2,117	+372	+21.4%
サービス他	8,740	10,191	+1,451	+16.6%
合 計	25,865	28,757	+2,892	+11.2%

※ 外部顧客への受注高を表示

【金融】

- ・ 4億円減は、ほぼ国内ITによるもの。
メガバンク系の大きなプロジェクトが一巡したこと、さらに金融機関内での事業ポートフォリオの見直しの中で、従来型のIT投資についてやや慎重な姿勢が見受けられたことが反映されて受注が伸び悩んだ。

【信託】

- ・ 旺盛な伸び、大型年金統合案件、複数年案件の受注開始などがある。

【医薬】

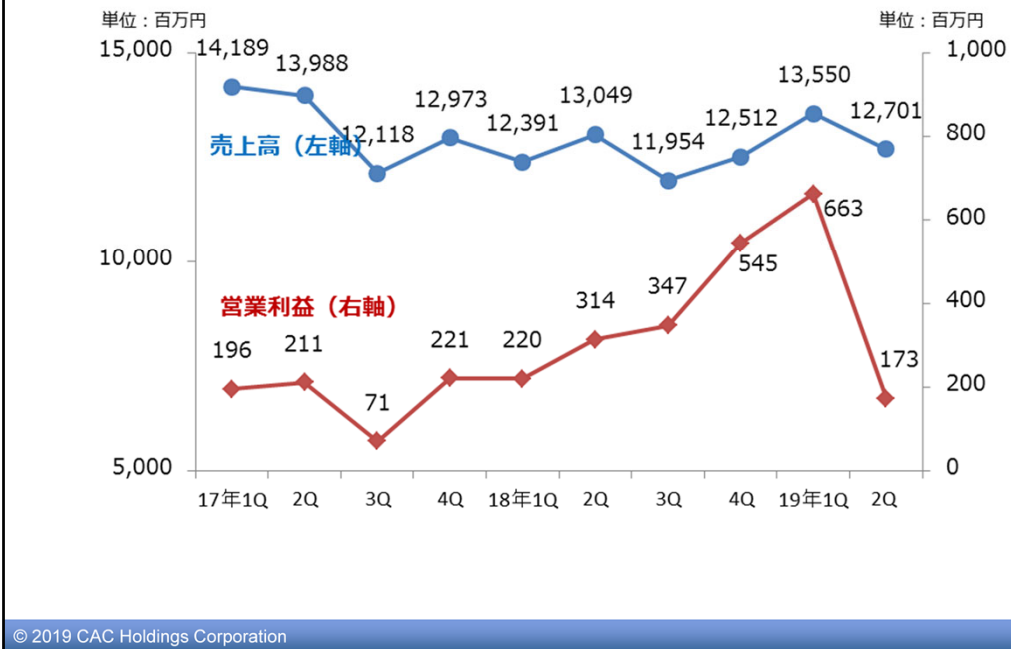
- ・ 82億円の受注高、ITで7億円増、一方でCROが5億円減で合わせて1.7億円増となった。

【サービス他】

- ・ 14億円の伸び、うち9億が海外。特にインド・中東での顧客は官公庁の案件が多く計上されている。

Ⅱ．2019年度下期の見通しと 通期業績について

連結業績四半期推移



9

【営業利益グラフ】

19年1Qから2Qへ右肩下がり原因：

- ・ 国内ITの利益が、1Qに偏っていた。2019年1Qの中に、2018年4Qにあがるべきものが検収の遅れなどで1Qに計上した分、また2019年2Qの計上予定だったものが前倒しで計上した分の双方で計1億円分が1Qに計上されたことや、販管費の未消化1億円などから1Qに利益が偏っていた。
- ・ 販管費は2Qで国内ITが1億ほど増えている。4月に新入社員が増えたことにより4～6月で販管費が増えたため、利益を押し下げた。
- ・ さらにCROが2Qで赤字になったことが響いている。

2019年度下期の見通しと取り組み

国内IT

- ・ 下期も顧客の需要を取り込み、堅調に推移する見通し
- ・ 将来コスト削減に向けた事業再検討等実施

海外IT

- ・ セグメント利益黒字化を目指す
- ・ インド中心に、収益確保に向けた事業構造改革を継続実施
- ・ 中国において、現地スタートアップへの投資を準備

CRO

- ・ 小規模案件を獲得しているものの、期初の想定以上に厳しい状況
- ・ コスト削減を推進するとともに、受注拡大へ注力

未来領域

- ・ DX獲得やコアICT領域拡大に向けたM&Aや提携を継続検討中
- ・ 事業提携先となり得るスタートアップへの出資継続

【国内IT】

- ・ 受注状況等を見ても非常に期待できる状況であり、下期も需要が旺盛で堅調に推移する見通し。
- ・ やや人手不足、リソースの質が薄い中で無理に案件を取ると不採算につながることもあるので、需要のほうが多いが、慎重に推し進めていく。
- ・ CACを中間親会社にして、ドメインの見直しなど事業再建をしながら案件をすすめていく。

【海外IT】

- ・ セグメント利益の黒字化はできた、これを維持していくように体制を整えていく。
- ・ インドではインフラ系、日本でいうハードウェア売上に近いところが多くを占め、利益率は低い。SIなど多少マージンの厚い取引が取れるように業務力を強化し、収益向上につなげる。
- ・ 中国においては、米中問題の影響は多少はあるが、当社はオフショア中心なので国内ITが旺盛であれば多少伸びる。現地でのブレイクスルーを狙い、現地スタートアップの投資を準備中。

【CRO】

- ・ 非常に厳しい状況である。最大の原因としては、昨年12月に大きなプロジェクトが終了し、四半期あたり3億から5億の売り上げがあったものがなくなったため。
- ・ これを埋めるべく受注活動を行っているが、小規模な案件で推移しているため、その結果反映に時間がかかっている状況。
- ・ 日本CRO協会の会員各社の総売上高は成長が止まっている。国際共同治験対応ができる外資との契約を望む傾向が多い中、内資のCROの状況は厳しい状況が続いている。
- ・ 当社は安全性情報管理がコアの売上となっていて、そこに一日の長がある。これをきちんと伸ばしていけるように受注していく。さらに今まで以上に厳しいコスト削減の策を講じていく。

【未来領域】

- ・ M&Aの獲得や、ベンチャーキャピタルを通じた技術の応用。
- ・ 感情認識AIなどは、すでに技術の応用が進んでいて、グループ全体で1億程度の売上があがっている。
- ・ ベンチャーキャピタル（VC）の投資状況、
 - 5個のVCの投資総額が25億。現時点はほぼイーブン。
 - PLに影響が出るものについては、当第2四半期では、営業外費用で1.1億円の損を計上している。損失計上しているものは、米のベンチャーをたたんでしまったもの。
 - 上場してExitして利益を出しているものもあるが、いずれにしても大きな影響はない。昨年までは、利益のほうが多かったが、今期に損失が出てイーブンぐらいになっている。
 - VCは純投資というより、技術の獲得という意味合いが強い。投資先は日本とアメリカ。今後は中国、インドでもやっていきたい。

2019年度 通期業績予想（連結）

単位：百万円

	2019年度 2Q実績	2019年度 通期予想	進捗率
売上高	26,251	52,000	50.5%
営業利益 (対売上比)	837 3.2%	2,000 3.8%	41.9%
経常利益 (対売上比)	810 3.1%	1,900 3.7%	42.7%
当期純利益 (対売上比)	438 1.7%	1,350 2.6%	32.5%

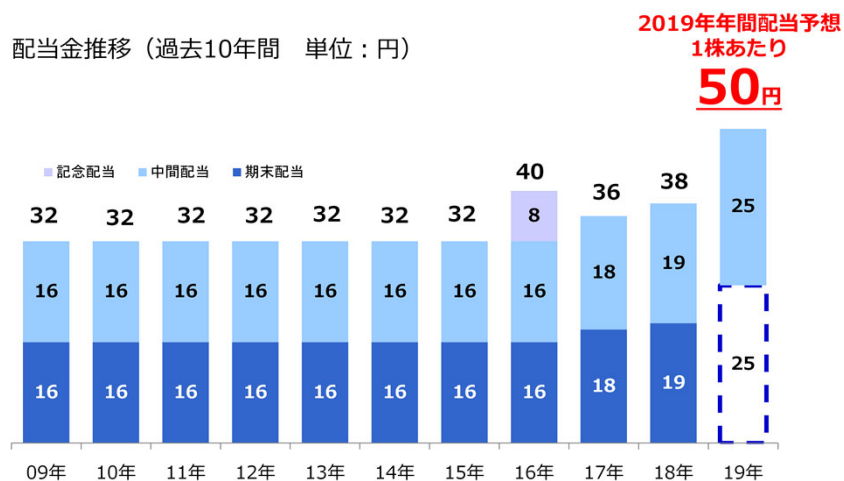
・利益面で進捗が遅れているものの、業績予想据え置き

- ・利益については進捗が遅れている。
- ・CROのブレーキが予想以上であり苦しい状況ではあるが、ITも堅調であることから、40%強の進捗率ではあるが、通期業績予想は据え置きとした。

株主還元：配当

- ・ 中間配当は予定通り1株あたり25円
- ・ 期末配当予想も25円で通期で1株あたり50円配当予定

配当金推移（過去10年間 単位：円）



- ・ 配当は今年度50円。株主還元を進める形。

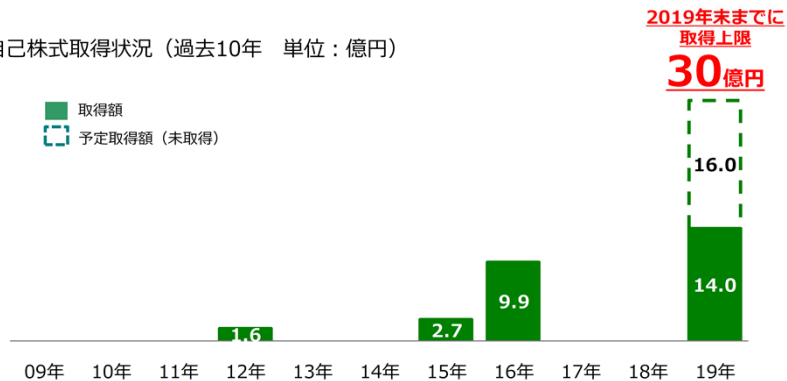
株主還元：自己株式取得進捗状況

- ・ 取得金額ベースで約半分取得。
- ・ 2019年12月末まで自己株式取得を進める予定

	取得上限 (2019年2月発表)	取得状況 (2019年7月末現在)	進捗率
金額	30億円	14億円	46.7%
株式数	300万株	93万株	31.1%

自己株式取得状況（過去10年 単位：億円）

■ 取得額
□ 予定取得額（未取得）



- ・ 金額のほうが先行していて、金額が14億円で46.7%の進捗率。株式は93万株の取得にとどまっている。
- ・ 制限がある中で取得を進めている。
→決算期間は取得できないし、インサイダー情報などがある際は取引ができない、また取引量も限定的になるなどしている。
→その中で12月末までに目標にむけて取得していきたい。

ご参考： 主要ニュース

参考：上期主要ニュース(1/3)

2019/1/21	<p>CACクロアと田辺三菱製薬が“QualityLead”で基本合意書を締結</p> <p>CACクロアが2019年度より運用を開始する化合物共有ライブラリー事業（「QualityLead」）で、田辺三菱製薬（株）と参画に向けた契約の基本合意書を締結。QualityLeadは、製薬会社が個別に保有管理している化合物を、CACクロアが提供する設備およびプラットフォームに集約し一括管理を行うことで、製薬会社の化合物管理にかかる多額の設備投資や維持管理経費の削減を図るもの。化合物を共通に利用できる基盤システムとして、産産連携・産官学連携を加速させるとともに、All Japan（オールジャパン）創薬体制の強化と、日本発の革新的な医薬品開発支援を実現する。</p>
2019/1/23	<p>CAC、非接触で心拍数を測るソフトウェア「リズミル」の提供を開始</p> <p>リズミルは「映像脈波抽出技術」を使った非接触型バイタルセンシングソフトウェア。東北大学を中核とする革新的イノベーションプロジェクト（COI 東北拠点）の活動から生まれた知財と、CACのIT技術を組み合わせ誕生。抽出された脈波信号から心拍数など、対象に触れることなくストレスフリーの測定が可能。今後は、解析データのCSV出力や個人識別、複数人の同時測定、iOS対応といった機能の追加を検討予定し、魅力的なアプリケーションやサービスを様々な業種の皆様と共に開発していく。</p>
2019/2/26	<p>CAC、rfxcel社と医薬品トレーサビリティ分野のパートナーシップ契約締結 ～ アジアでの医薬品トレーサビリティ協業を推進 ～</p> <p>rfxcel社は、グローバルサプライチェーン全体でシリアルライズ（1つ1つの物に固有のシリアル番号を付すこと）されたデータのトラッキング情報を蓄積・共有するソリューションを米国市場やEU、ロシアなどの各国で、ライフサイエンス産業や食品業界に対し提供。近年拡大する偽造医薬品対策の検討にあたりrfxcel社との協業を推進し、日本市場における医薬品トレーサビリティ分野の法規制の変化に対応する為の活動を展開予定。また、中国市場への展開も検討していく。</p>

参考：上期主要ニュース(2/3)

2019/2/28	<p>CACクロア「化合物共有ライブラリー事業」に塩野義製薬が参画</p> <p>CACクロアが展開する「化合物共有ライブラリー事業」（「QualityLead」）において、塩野義製薬(株)の化合物ライブラリーの管理、およびプレート作製業務の委託について契約を締結。塩野義製薬(株)の所有する化合物ライブラリーの管理およびHTS（標的分子との親和性が高い化合物（ヒット化合物）を選抜する、創薬の起点となる手段）を実施するためのプレート作製業務をCACクロアが代行する。</p>
2019/3/8	<p>CAC、「長崎BPOセンター」立地協定調印式を実施</p> <p>CACは新拠点「長崎BPOセンター」の立地協定調印式を、長崎県および長崎市と実施。同拠点は「長崎BizPORT」に開設し、2019年7月から業務を開始予定。BPO業務拡大・サービス強化とともに、雇用創出を通じた地域社会活性化と発展に貢献。</p>
2019/3/14	<p>CACとエンタッチ、製薬企業向け営業支援ソリューションで協業開始</p> <p>CACは、医師と製薬企業をオンラインでつなぐコミュニケーションプラットフォームや遠隔情報提供サービスを提供しているエンタッチ(株)と、製薬企業向け営業支援の分野で協業。CACの提供する営業支援システム(MR-Navi)をはじめとした統合営業支援ソリューションのマーケティング及び営業で協力する。</p>

参考：上期主要ニュース(3/3)

2019/6/6	<p>CACとCCN、乳幼児を対象とした見守りサービスの共同開発契約を締結 ～ 赤ちゃんのお昼寝をデジタル技術で見守り ～</p> <p>(株)シーシー・ネットワークは、カメラ映像をベースにしたIoT技術による乳幼児の午睡チェックを支援するサービス「みまも」を提供。今回の契約は、「みまも」にCACの映像脈波抽出技術を用いた非接触バイタルセンシングソフトウェア「リスミル」の機能を付加し、新たなサービスを共同開発するもの。乳幼児の午睡を見守る保育士の負担をサポートすると同時に、保護者への安心を提供する。</p>
2019/6/28	<p>QualityLead構想の早期実現に向けて CACクロア と アクセリード が 業務提携の検討を開始</p> <p>CACクロアと、創業支援のAxcelead Drug Discovery Partners(株)（「アクセリード」）は、化合物共有ライブラリー事業「QualityLead」について、業務提携の検討を開始した。両社の持つリソースとノウハウを共有し、「QualityLead」構想の早期実現を目指すもの。</p>
2019/7/30	<p>CAC Holdings、日本企業初となる本格常設ボッチャコートを社屋に設置</p> <p>CAC Holdingsは、本社社屋1階に来客対応エリアを兼ねたボッチャコートを設置。コートは国際大会でも活用される床材を用いた公式サイズ。今後はボッチャアスリート、地域の方々やお客様への開放を行い、ボッチャの普及を一層推進していく。</p>



株式会社 CAC Holdings

経営企画部 Enterprise Value Upグループ

TEL : 03-6667-8010 E-mail : prir@cac.co.jp

<https://www.cac-holdings.com/>



CACグループは、障害者スポーツ「ボッチャ」の普及・発展をお手伝いしています